

学校法人行吉学園中期目標

学校法人行吉学園中期目標

◆ 基本姿勢

学校法人行吉学園は、建学以来、豊かな知性を育む教養教育と高度な知識・技術を養う実学教育を通して女性の自主自立を支え、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成してきた。学生一人ひとりに丁寧な教育を行うことを旨とし、学生が自らの人生を切り拓く力を身につけられるよう細やかな指導を実践してきた。近年は、これらの姿勢が学生の真面目な気風とともに入試難易度の上昇という形で評価されてきている。

本学を取り巻く環境は、内閣による「すべての女性が輝く社会」づくりの提唱に伴い、女性が社会で活躍する基盤整備が進められており、まさに本学の特性を活かした教育が求められる時代となりつつあるものの、一方で受験生の共学志向が高まっており、その必要性と相反する形で女子大学にとって厳しい状況にある。また、平成30年度から再び進行している18歳人口の減少は収束する気配が見えず、大学は受験人口が減り続けることを前提とした運営を行わざるを得ない。加えて、大手私立大学が定員をさらに増やしており、大学の寡占化が進む傾向にある。また、本学が特色としてきた地方からの受験生確保についても、保証人の所得の減少及び地方における公立大学の増加等により非常に厳しい状況になっている。

このような情勢の中、本学が今後も発展していくためには、これまで積み重ねてきた丁寧な教育を基本として、これからの社会が求める人材のありようを把握し、これからの社会に必要な能力を身につけた卒業生を輩出していかなければならない。現在、我が国では、産業構造の変革が進み労働人口が減少する中でも社会が持続的に発展できるよう「自主的・自律的に考え、また、多様な他者と協働しながら、新たなモノやサービスを生み出し、社会に新たな価値を創造し、より豊かな社会を形成することのできる人を育てていく」必要性が提唱され、そのために「学んだ知識・技能を実践・応用する力、さらには自ら問題の発見・解決に取り組む力」を育成することが重要と言われている。また、民族・宗教や領土を巡る対立から、世界的に紛争の危険性が高まっており、女性の特性を活かした世界平和の実現が求められている。本学としては、これら社会の要請を踏まえ、本学で培う能力や教育方法の特長を明確化し、同時に本学の卒業生が実際にどのような能力を獲得し、社会においてどのように活躍しているのかを広く発信していく必要がある。そこで、今後本学が取り組む施策の方向性を示すため、学校法人行吉学園中期目標を策定する。

◆ **基本目標**

大学及び短期大学は建学の精神に則り、より良い女子教育を追求し、教育の質の実績において兵庫県下で一番の女子大学になるとともに、地域における各分野の教育研究の中核となることを目指す。定員の規模は大学・短期大学を合わせた総数で現状以上とするとともに、短期大学は大学の学部化も視野に大・短合同の運営を進める。

大学は、教育研究上の特長を明確にし、その内容・実績を社会に示すことで引き続き入試難易度の向上を目指し、短期大学は、今後の社会が短期大学に求める方向性を見極めつつ、学生の確保を目指す。

◆ **目標期間**

2019年4月1日～2024年3月31日までの5年間

◆ **教育・研究等に関する目標**

I **教育に関する目標**

1 **自立心・対話力・創造性の向上に関する目標**

- ・ 建学の精神を具現化し、本学が現代の学生に培う能力としている「自立心・対話力・創造性」について、学生がどれだけ身につけられたか検証し、改善につなげる仕組みを整備する。また、「自立心・対話力・創造性」と時代及び社会が求める学生の能力に乖離がないか不断の見直しを行う。

2 **教育内容に関する目標（各学科、研究科等）**

- ・ 各学科、研究科等において、教育研究上の目的を実現するための数値目標を設定したうえで達成状況を検証し、次年度の改善につなげるシステムを構築する。

3 **教育内容に関する目標（全学共通教育部・教養教育委員会）**

- ・ 学科を問わず本学を卒業した学生が全員身につけておくべき能力を明確化する。その能力を確実に養成するカリキュラムを検討し、教養科目として整備することで本学の特長とする。

4 **教育課程に関する目標**

- ・ 授業科目のナンバリングにより、学生が学びの体系を理解したうえで学習が進められる教育課程を展開する。
学生の学習時間の確保及び教室等の施設の有効活用の観点から、カリキュラムのスリム化をはかるとともにCAP制の厳格化を進める。
GPAの精度を高め、学生指導等への活用をはかる。

5 教育方法に関する目標

- ・ 学生が授業を通して必要な能力を確実に身につけることができるよう授業内容の改善及び教育効果の高い教授方法の普及をはかる。

6 国際化に関する目標

- ・ 人材及び情報の国際的移動の活性化、異文化交流の進行など社会のグローバル化に対応し、国際都市神戸に位置する大学として、広く世界で活躍できる人材を養成する。

II 研究に関する目標

1 教員の研究に関する目標

- ・ 教育の裏付けとなる研究の業績等について、毎年職位に見合う蓄積がはかれる制度を構築する。

2 学生の研究に関する目標

- ・ 学生が学問を通じて、研究的視点や論理的思考などのアカデミックスキルを養えるようゼミ等での研究・探究活動の活性化をはかる。

III 社会貢献に関する目標

1 社会貢献に関する目標

- ・ 優秀な人材を社会に輩出するために、地域を教育・研究のフィールドとし、その成果を地域に還元する。

IV 学生の進路に関する目標

1 進路支援に関する目標

- ・ 学生が大学での学びを活かして自らの人生を切り拓いていけるよう就職・進学を支援する。

2 専門就職に関する目標

- ・ 本学の伝統である実学教育を活かした高度な専門職業人としての就職を支援する。

3 優良企業就職に関する目標

- ・ 一般企業への就職を希望する学生の優良企業への就職を支援する。

4 公務員就職に関する目標

- ・ 公務員（一般）就職者数を増加させ、本学の特長とする。特に地方での就職を強化する。

5 Uターン就職に関する目標

- ・ 地方出身者のUターン希望を確実に叶え、地方から進学しやすい大学として特長を打ち出す。

V 学生支援に関する目標

1 学生満足度・帰属意識に関する目標

- ・ 学生の満足度、帰属意識を詳細に把握・分析し、改善につなげる仕組みを構築する。

2 経済的支援に関する目標

- ・ 保証人の世帯所得の低下及び奨学金利用学生の増加が進行していることから、学生の経済的負担の更なる軽減をはかるための制度や仕組みを導入する。

VI 施設・設備に関する目標

1 施設設備に関する目標

- ・ 学生が安心して快適に勉学に励むことのできる施設・設備等の教育環境を整備する。

◆管理運営体制に関する目標

VII 入試広報に関する目標

1 入試広報に関する目標

18歳人口が減少する環境においても、志願者の増加を目指した取組を実施する。

VIII 幼稚園に関する目標

1 幼稚園に関する目標

- ・ 大学附属実習園として、園児数を確保しつつ、就学前教育制度の変革に適応する。

IX 組織に関する目標

1 定員充足に関する目標

- ・ 入学定員を充足できない学科等について、未充足を解決するための手順を定め、早期の対策を講じる。

2 大学・短大一体的運用に関する目標

- ・ 学園として一層の総合力を発揮するために、大学・短期大学の一体的運用を進める。

X 財政に関する目標

1 財政に関する目標

- ・ 18歳人口の減少に伴い激化する学生獲得競争に備え、必要な時期に必要な投資が行えるよう財務体質の健全化をはかる。

学校法人行吉学園中期計画

学校法人行吉学園中期計画

I 教育に関する目標を達成するための計画

1 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

【I-1】

自立心・対話力・創造性について、到達度調査の改善をはかり能力獲得の測定ツールとして確立し、各学科等において3つのポリシーに沿った学生の能力の伸長が実現できているか検証を行う。また卒業生アンケート等により、獲得した能力と社会で求められている能力に乖離がないか検証を行う。

2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

【I-2】

各学科、研究科等において、ディプロマポリシーに掲げる能力が身につけているか検証するための指標を開発したうえで目標を設定し、目標達成に向けたカリキュラムの改編など各種施策を実行する。（各学科、各研究科等の計画は別表のとおり）

3 教育内容に関する目標（全学共通教育部・教養教育委員会）を達成するための計画

【I-3】

本学を卒業した学生全員が身につけておくべき能力に関する指標を開発し、教養科目のカリキュラムを精査するとともに、全専任教員が教養科目運営に関わる仕組みを整備する。英語教育については全学で組織的な教育体制を整備する。

4 教育課程に関する目標を達成するための計画

【I-4】

大学ではナンバリングを利用した履修指導を行い、短大でもナンバリングを導入したうえで学生の体系的な学習を進める。また、学生の学習時間の確保に向け、履修上限単位数を引き下げるとともに、教養科目及び各学科における専門科目の科目数の圧縮をはかる。さらに、GPAを運用するうえでの課題を整理し、学生指導において有効な活用方法を開発する。

5 教育方法に関する目標を達成するための計画

【I-5】

授業アンケートを充実させ、実際に教育方法の改善につながる仕組みを整備する。またFD活動に全教員が参加する体制を整備し、教育支援ツールの活用等を推進する。教育効果に向け、IRデータの収集・分析を進める。

6 国際化に関する目標を達成するための計画

【I-6】

英語圏を中心に派遣留学生及び受入留学生の増加をはかる。派遣留学については、プログラムの内容の検証・改善を行うとともに、資格サポートデスクと連携した英語運用能力の向上、保証人の協力を得られる仕組みの整備を行う。留学生の受入については、提携校の開拓と受入体制の整備を行う。

II 研究に関する目標を達成するための計画

1 研究業績に関する目標を達成するための計画

【II-1】

教員の職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準を設定し、毎年チェックを行う体制を整備する。研究活性化に向け、学外研究費の情報収集と学内への周知を強化する。

2 学生の研究に関する目標を達成するための計画

【II-2】

学生の研究を活性化するため、大学院生と学部生が交流する機会を増加させるとともに、学会等の情報を提供して参加を促す。また、特別に優れた学部生・短大生の研究・探究活動について表彰制度を整備する。

III 社会貢献に関する目標を達成するための計画

1 社会貢献に関する目標を達成するための計画

【III-1】

地域や企業・団体の課題解決を目的とした連携活動を、学生の教育効果の充実をはかりつつ、地域連携、公開講座、産学連携、高大連携等事業として毎年複数稼働させる。共同研究、受託研究の推進及び各種学協会の公募型研究への教員の応募を支援する。

IV 学生の進路に関する目標を達成するための計画

1 進路支援に関する目標を達成するための計画

【IV-1】

学生進路満足度及び卒業生離職率に関する調査を導入し、進路支援の指標化をはかる。1年次から卒業まで途切れのないキャリア支援活動を展開するとともに、学科等とキャリアサポートセンターの連携を強化して丁寧な支援を行う。保証人への情報提供を進め、保証人と協力した進路支援を行う。就職だけでなく進学への支援も強化する。

2 専門就職に関する目標を達成するための計画

【IV-2】

各学科の専門性を活かした就職を支援するため、学科等とキャリアサポートセンター・教職支援センターの情報共有を強化する。就職の前提となる資格試験や教員採用試験の合格に向けてキャリア意識の涵養と対策講座等の活用をはかる。

3 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

【IV-3】

事業規模・内容に加え、離職率等の状況も含めた優良企業に多くの学生が内定を獲得できるための受験支援や業種ごとの特徴を踏まえた試験対策を実施する。基礎学力や情報スキルにつき、対策講座や資格講座の活用をはかる。

4 公務員就職に関する目標を達成するための計画

【IV-4】

地方の有力な就職先として公務員採用試験の合格を強化する。公務員希望者に対して1年次から意識の涵養をはかり、公務員試験対策講座の受講を勧め、各地域の試験情報、試験内容を提供するとともに、面接対策を実施する。

5 Uターン就職に関する目標を達成するための計画

【IV-5】

Uターン希望率やUターン就職率等の調査を実施したうえで、Uターン希望者の就職を確実に実現する支援を行う。希望者には、1年次から地方優良企業の情報及びUターン奨学金制度等の情報を提供する。また、地方公共団体とのUターン協定を推進するとともに地方優良企業との関係構築をはかる。

V 学生支援に関する目標を達成するための計画

1 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

【V-1】

不満足要因が追究できるよう学生アンケートの内容を精査し、学生満足度及び帰属意識に関する指標を開発する。退学者予備軍の把握が可能な仕組みと関係部署によるフォロー体制を整備する。学生の出身地域別コミュニティによりピアサポートを活性化させる。また、各クラブの活性化をはかるための魅力あるクラブ育成を検討する。

2 経済的支援に関する目標を達成するための計画

【V-2】

各種団体等の奨学金制度の情報収集と学生への周知を強化するとともに公営住宅、民間住宅等の空家対策と連携して低家賃住宅確保の方法を検討する。

VI 施設・設備に関する目標を達成するための計画

1 施設・設備に関する目標を達成するための計画

【VI-1】

施設・設備及び教育環境に関する学生満足度指標を開発し、学生のニーズに配慮した整備計画を策定するとともに時代の変化に対応した情報教育機器の整備と定期的な更新をはかり、施設・設備及び教育環境の改善をはかる。学生の大学生活充実に資するスペースの改修を進める。

VII 入試広報に関する目標を達成するための計画

1 入試広報に関する目標を達成するための計画

【VII-1】

各学科との連携を強化し、就職・資格取得に強い本学の特長に関する積極的な広報活動を実施する。質の高い情報提供や出前授業による高校との関係強化をはかるとともに、地域や高校の特徴に応じたより戦略的な広報活動を展開する。高大接続改革に対応した入試制度の改革を進め、多面的な評価により意欲・能力ともに高い学生の獲得を実現する。

VIII 幼稚園に関する目標を達成するための計画

1 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【VIII-1】

地域の児童数の将来予測や他園の運営状況を分析し、定員確保に向けて運営形態、運営方法の見直しをはかる。無償化を含めた就学前教育制度の変革に対応していく。

IX 組織に関する目標を達成するための計画

1 定員充足に関する目標を達成するための計画

【IX-1】

社会が必要とする人材及び受験生が志望する分野の動向を把握し、常時各学科等の教育内容の見直しや新学科等の設置を含め学科の在り方等を検討していく。

定員未充足の組織については、未充足の期間によって改組や廃止を進める基準を整備し、早期の改善につなげる仕組みを構築する。

2 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

【IX-2】

法令上の制約等を踏まえたうえで、教学部門の組織や委員会等について統合もしくは合同設置等を行うことにより、効率的かつ効果的な運用が行えるよう体制整備をはかる。

X 財政に関する目標を達成するための計画

1 健全財政に関する目標を達成するための計画

【X-1】

寄付金や資産運用収入の増加をはかるとともに、管理経費や人件費等の見直しを行い、財務体質の強化を進める。人件費については、将来に亘り運営が可能な人員配置及び各種制度の変更を検討する。

各学科の科目数・コマ数の適正化をはかり大学・短大全体で効果的な教育課程を整備する。

(別表)

I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

各学科、研究科等において、ディプロマポリシーに掲げる能力が身につけているか検証するための指標を開発したうえで目標を設定し、目標達成に向けたカリキュラムの改編及び各種施策の実行を行う。

神戸女子大学

文学部	
日本語日本文学科	各ゼミでの発表・討論・文章作成の機会の拡充、日本語関連検定の活用等の対策を講じることにより、専門性を高め、それとともに日本語運用能力、表現力及びコミュニケーション能力の向上に取り組む。
英語英米文学科	自学自習が可能な e-learning、TOEIC レベル別夏季集中講座、アドバンストクラスを新たに設ける等の対策を講じることにより、英語運用能力及び専門性の著しい強化に取り組むとともに、学外での英語ボランティアなど英語を活用する学びを取り入れる。
国際教養学科	少人数クラス授業の展開、新たな交換留学の開始等の対策を講じることにより、語学力及び専門性の強化に取り組むとともに、外国語を活用したフィールドワークを取り入れる。
史学科	歴史についての基礎知識を充実させ、歴史学の基本原則に沿いつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるため、歴史学の基礎科目を追加するとともに課題解決型授業としての演習科目をいっそう充実させる。
教育学科	学習環境を更に整備し、幼稚園教諭・保育士、小学校教諭養成の充実を図るための、アクティブ・ラーニング型授業を推進する。また、中学校教諭（英語）の養成を開始し、英語指導力の強化に向けた科目を設定する。専門性の向上を目指しカリキュラムの見直しとコース選択時期の前倒しを行う。

家政学部	
家政学科	コース体制の問題点の把握と改善を実施し、家政学の体系的な学びを構築するためのカリキュラムの見直しを行うとともに、家庭科教員養成校としての役割の強化及び各種資格を活用した学びを展開する。
管理栄養士養成課程	管理栄養士のリーダーとなりうる人材を養成するため、専門性を伸ばすためのカリキュラム改編と、期待する能力に関する指標を開発する。
健康福祉学部	
社会福祉学科	専門性強化に向けたカリキュラムの改編を行うとともに、社会福祉士等3種の国家資格取得に向けて、1年次から意識向上のための取組を充実強化し、3年次には各国家資格受験希望学生が本格的な受験勉強に取組み始める仕組みを構築する。
健康スポーツ栄養学科	初期教育の強化をはかるとともに、中学校、高校の保健体育教諭の養成を開始して、スポーツ分野の特長を明確化する。
看護学部	
看護学科	カリキュラム評価を基にした授業科目の開講期の変更を行う。ディプロマポリシーに掲げる能力の修得を検証する教育評価アンケートをもとに、教育の充実をはかるとともに学生が個々の学習課題に自主的に取り組める仕組みを整備する。また、保健師・助産師・看護師国家試験全員合格に向けた1年次からの学習支援を行う。

神戸女子大学大学院

文学研究科	指導教員の研究能力の向上をはかるとともに、大学院と学部の合同研究会を開催し、研究の魅力を普及して学部生の進学意欲を喚起する。
家政学研究科	指導教員の研究能力の向上をはかり、業績の数値化を行う。教職免許志望者に対して教員のリーダーを目指すキャリア教育を実施する。また、インターンシップ、留学などの制度化のありかたを検討する。
健康栄養学研究科	指導教員の業績をまとめ数値化を行う。他研究科または、近隣他大学とのダブル・ディグリーやジョイント・ディグリーの検討を進める。

神戸女子大学専攻科

学校教育学専攻科	実践的で高度な能力に関する指標を開発・作成し、目標数値を設定するとともに学部との接続強化はかる。指導教員の業績をまとめ数値化する。
----------	---

神戸女子短期大学

総合生活学科	学生の学修成果・総合的学び及び学問に基づく実践力の強化に向けた取組とカリキュラムの改編を行う。また、各種資格を活用した教育を展開する。
食物栄養学科	子どもの食育を特長化し、カリキュラムの見直しを行うとともに、学外の幼児教育施設・機関と連携した教育を展開する。
幼児教育学科	保育実践力の向上を図る取組を行うとともに公立幼稚園教諭・保育士採用試験合格に向けた学習支援を行う。